

# 生徒が先生になっちゃおう —生徒主体の母語体験ワークショップ—

黒田協子 (神奈川県立相模向陽館高等学校)

## 生徒たちの母語を直接法で学校の教員に教えるワークショップの実践報告 (コーディネーターとしての日本語担当者の視点から)

- ①日本語教員の流れ
- ②生徒の流れ
- ③学校教員の流れ

1. 時期の決定 (学校行事・能力試験や生徒と教員の関係性の把握)
2. グループ分け (母語集団の人数調整)
3. 参加教員と生徒との関係性の把握

既習言語の申請 (大学  
その他の学習経験)

↑

生徒の来日経緯を体験するために具体的にワークショップで何をするかは伝えられない  
「多文化理解教育につながるワークショップを実施」とあいまいに伝えておく

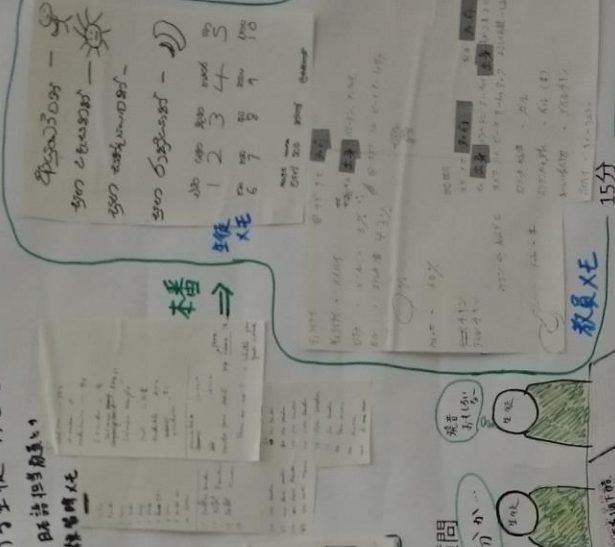
1. やり方の説明・提示 (25分)
- 出欠確認・教室移動・グループ配置等

みんながせんせいになります!!  
やくそく

1. みんなは日本語が分かりませんがなもカタカナも分かりません (ひらがなもカタカナも分かりません) 日本語
2. 英語も分かりません (共通する言葉はあります)
3. 数字・絵はたくさん使ってください
4. 中国語の漢字は使ってもいいです

ある生徒の流れ  
1. 母語担当教員

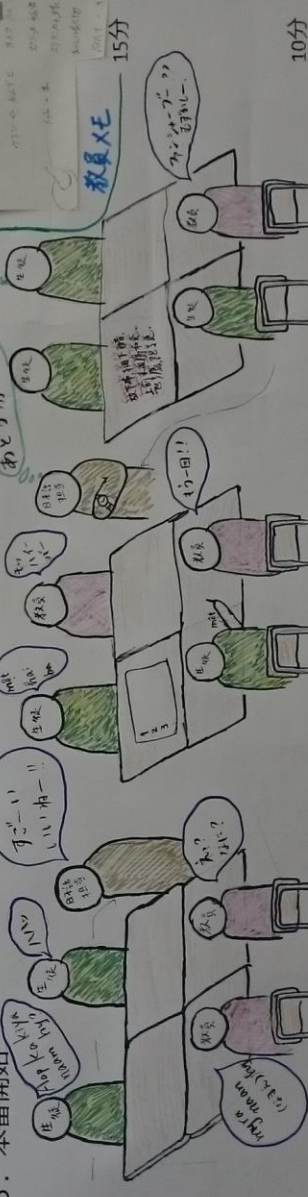
10分



休憩 (5分)

2. 全体での集合・グループの確認・参加する教員への趣旨説明や質問
3. 本番開始

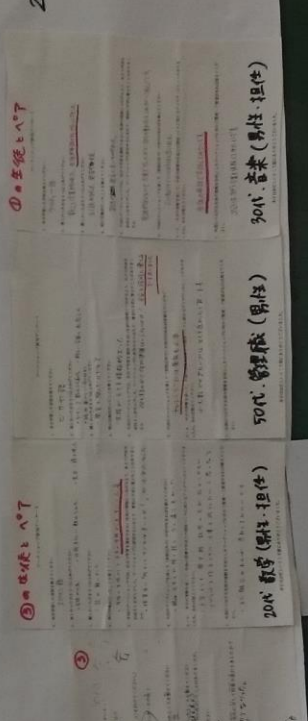
15分



10分

4. アンケートを記入しながら振り返り

5. 感想、習ったことの共有など



20分

事前準備

① 感想、習ったことの共有など

② アンケートを記入しながら振り返り

③ 感想、習ったことの共有など

④ アンケートを記入しながら振り返り

⑤ 感想、習ったことの共有など

⑥ アンケートを記入しながら振り返り

⑦ 感想、習ったことの共有など

⑧ アンケートを記入しながら振り返り

⑨ 感想、習ったことの共有など

⑩ アンケートを記入しながら振り返り

90代 音楽 (男性・担任)

50代 管理職 (男性)

20代 職専 (男性・担任)